

令和4年度第3回北海道若者活躍プロジェクト地域教育ワーキンググループ記録

日時 令和4年9月29日(木) 13:30~14:50

場所 ZOOMによる

次第及び出席者は別紙会議資料を参照

【議題】

1. 地域志向人材育成プログラム修了認証制度について

室蘭工大(永野教授)から資料に基づき説明があり、提案のとおり了承された。

【提案】

- ・大学・高専は地域教育を継続し、その内容は各校が個別に決める。
- ・単位認定、修了認証を導入している大学・高専は、各校が定める基準により修了証を発行する。
- ・認定要件を各校で定める。これまでは、大学10単位、高専7単位だった。

2. 道内就職優遇制度について

室蘭工大(永野教授)から資料に基づき説明があり、提案のとおり了承された。

【提案】

- ・制度を廃止する。
- ・今後の優遇内容の設定は、各企業に任せる。

3. 地域PBL発表交流会について

室蘭工大(永野教授)から資料に基づき説明があり、意見交換の結果、10月12日(水)までに各校に意見を事務局(室蘭工業大学)に提出することとなった。

【議題 1 に関する意見】

意見：プログラム修了人数を成果としているが、必修化しているので修了人数が当然増加してくると思う。学生の意識変化（地域愛が芽生えた等）を成果とした方が良いのではないかと。コロナ禍、働き方改革により就職状況が変わっている。就職率の増加は別の要因もあるのではないかと。

意見：学生に対する意識変化を調査していないが、必修プログラムにしたこと自体に重みがあると思う。地域の状況を知る授業を取り入れることの意味表示である。

意見：2020年にプログラムのアンケート調査は実施しており、地域志向人材育成プログラムの効果や認知度をCOC+の最終年度にまとめているが、現在は調査していない。

意見：学生と地域企業の大事な接点なので、継続願いたい。

意見：プログラムについては了解するが、修了証のメリットが疑問。

【議題 2 に関する質疑等】

意見：導入当初は、魅力的な制度だったと思う。各社で優遇制度を充実させているので、現在は魅力に欠けるところがあると思う。廃止は納得。

意見：利用者が少ないので、学生には魅力がないのだろう。利用がないものは継続すべきではない。廃止に納得。

意見：実績もないので、廃止はやむを得ない。

意見：函館高専では、修了生にデジタルバッジを配布している。本プログラムを含めた修了証明をデジタルで確認できるので、履歴書にも貼れるし紛失もない。

【議題 3 に関する意見等】

意見：室蘭工業大学のPBLのレベルは高いと思う。企業は採用活動としても魅力的な機会になっている。北海道の活性化に関するテーマであれば、なおのこと希少な機会である。継続できるならぜひ、協力したい。道外のメジャーな企業が入ってきた際は、道内の活性化につながるよう、運用を工夫できると良い。

意見：函館の高等教育機関の学生と企業をつなげる研究発表会（アカデミックリンク）がある。運営費は函館市、大学、商工会議所が出し合って開催している。道内に若者を残す取組みであれば、自治体に対応してもらえたら良い。対面式にこだわっているが、会場費の予算が難しいなら、学生と企業が接点を持つ機会があれば良いのでは。

意見：アカデミックリンクは、産学連携クリエイティブネットワークが主催。事務局は函館市で、運営は持ち回りで行っている。地域の課題をテーマにした研究発表を行っている。学生は発表が義務になっている。参加者は市民と他校の学生。審査員（産業界）がブース発表、ステージ発表で評価している。

意見：北海道でも振興局で学生と企業の事業展開も行っているので、担当部につないでいきたい。

意見：主担当校が負担する開催費用について、現時点で予算計上はなく、これから検討するので保留としたい。

説明：景品はこれまで準備してきたもので、用意するかは今後のやり方だと思う。課題は誰が運営するかである。室蘭では、今後も継続して運営することは考えていない。

意見：持ち回り開催に異論はない。予算化するためには経費を明確にしてほしい。

意見：大きいプロジェクトの中で、PBL 発表交流会だけが残る場合、どれだけの学生に参加してもらえるのか自信がない。予算面でも裏付けがないと持ち回り開催することは難しい。今年も学生の旅費を大学が負担することとしているが、プロジェクトが終了した後に、同じように予算化することは難しいと考える。学生にとっても発表交流会が魅力的に映るかが疑問。

質問：プロジェクト自体はなくなるのか。

回答：プロジェクト全体については、継続しない方向である。

意見：プロジェクトとしては、地域教育と道内就職優遇制度の 2 本柱でやってきたと思う。一方は各教育機関に委ね、一方は廃止とするなら、組織化して実施する意義がないので、プロジェクト自体は解散になるのではないか。ただ、PBL 発表交流会は意義があるので、残したいが、財源が課題になっていると理解しているがいかがか。

回答：ご理解のとおり

意見：小さい組織（例えば函館、苫小牧、室蘭）でやればどうか。併せて就職説明会、見学会もやることにすれば、予算化しやすいのではないか。函館では、アカデミックリンクを 20 年継続しており、産学連携部門で予算化されている。道内地域の小さい組織で継続するなら可能性があると思う。

意見：交流会の開催自体は賛成するが、担当校となった場合、予算の出所で難しいと考えている。

意見：室工大は今まで大変だったと思うので、持ち回りの提案になったと思うが、現時点は持ち回りに賛成しかねる。苫小牧スマートシティ協議会が 8 月に立ち上がり、ふるさと納税を資金源に、学生が発表を行う予定。苫小牧内部で発表会を行う予定。各地域で進めてはどうか。

説明：これまでの予算の実績を報告する。会場使用料及び旅費の他には、景品 5,000 円程度、紙の印刷費用、パソコンプロジェクター等の備品費がある。会場使用料が有償になると大きく変わる。

意見：WG の場では結論が出ないので、各校のお考えを後日送付してもらえるか。

意見：10/29 の協議会の案になるにすれば、詳細な実施形態に見える。発表会の開催に係る協議体を新たに作って検討しても良いのではないか。

意見：本 WG 資料で合意があった後は、教育機関で申し合わせを結ぶことも想定している。まずは本 WG で提案内容を了承いただくことが先決と考えていた。

意見：各校から意見を出してもらうのが良いと思う。

依頼：各校のお考えを 10 月 12 日（水）までに事務局あてに送付願いたい。

以上